

新たな農林水産研究基本計画(案)について

— 今後10年程度を見据えた研究開発の重点目標及びそれを実現するための推進施策 —

平成27年3月
農林水産省農林水産技術会議

基本的考え方

【背景】

- 世界的な人口の増加や気候変動などによって、**国際的な食料需給の不安定性が増大**。
- 引き続き、食料自給率の向上に努めつつ、良質な食料を安定的に供給していくため、従事者の高齢化・減少等、生産基盤が脆弱化する農林水産業が、**若者にとって希望の持てる魅力ある産業に生まれ変わることが必要**。

【策定方針】

- 「**生産現場等が直面する課題を速やかに解決するための研究開発**」を最優先課題に位置付け、普及組織・担い手等と協働した研究開発を強力に推進。
- ICTやロボット技術等の**最先端技術シーズ**を国産農林水産物のバリューチェーンに結び付ける**新たな産学官連携研究の仕組み**を創設。
- 地球温暖化、少子高齢化など**中長期的な視点**で取り組むべき課題についても、**将来の目指すべき基本的な方向**を定め、着実に推進。

第1 農林水産研究の推進に関する施策の基本的な方針

1. 研究開発マネジメントの改革 (ニーズに直結した研究開発の戦略的な展開)

産学官の関係者を巻き込んだ研究開発戦略づくり

- ロードマップによる進行管理
- 異分野の技術シーズ情報の収集強化

Plan

予算の集中・重点化

- 真に必要な研究課題への「選択と集中」

Action

Check

評価制度の効果的な運用

- 予算の集中・重点化に向けた評価制度の運用見直し

Do

- 他府省との連携、異分野技術の取り込み
 - 関係府省を巻き込んだ研究推進体制

- 「橋渡し」機能の強化 (右図参照)
 - 「知」の集積による技術革新
 - 研究開発・普及・生産現場の連携強化

- 戦略的な知的財産マネジメントの推進
 - 秘匿化や独占的な許諾も選択肢とした知財マネジメント

- レギュラトリーサイエンス等の充実・強化
 - 規制対応研究の強化

- 国民理解の促進
 - 国民との双方向コミュニケーションの強化

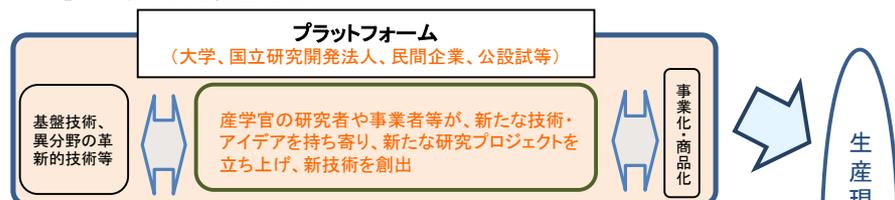
3. 多様な「知」の創出のための環境整備

- 国立研究開発法人の改革
 - 平成28年4月の独法統合の効果を最大限に発揮するための体制整備

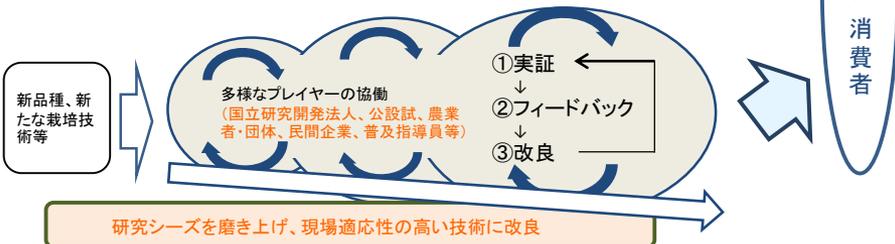
2. 技術移転の加速化



- 「知」の集積による技術革新



- 研究開発・普及・生産現場の連携による技術開発・普及



- 研究開発基盤の強化
 - 研究資金制度の効果的な運用
 - 研究開発情報の収集・分析
 - 人材育成
- 国際連携の推進
 - 国際研究ネットワークへの積極的な参画

第2 農林水産研究の重点目標

1. 農業・農村の所得増大等に向けて、生産現場等が直面する課題を速やかに解決するための研究開発

- 「経営展望」に示された各地域における効率的かつ安定的な農業経営の姿の実現や分野・品目別の生産・流通上の課題等の速やかな解決に向け、21の重点目標を設定。
- 今後5年間程度で技術開発及び実用化を図り、その後速やかに生産現場への普及を目指す。

水田

- 地域条件に応じた高収益性水田営農システムの確立

中山間水田

- 地域の強みを活かし、持続性のある中山間水田営農システムの確立

北海道畑作

- 担い手の規模拡大や高生産性営農を可能とする北海道畑作営農システムの確立

南九州・沖縄畑作

- 南九州・沖縄地方における高収益性畑作営農システムの確立

茶

- 実需者と連携した強みのある商品開発による茶の需要拡大及び効率的な営農システムの確立

野菜

- 加工・業務用需要に対応した野菜の低コスト生産・流通システムの確立

施設園芸

- 省エネ・省力・高収量を実現する次世代施設園芸モデルの開発

果樹

- 担い手の規模拡大を支える高品質果実の省力・早期成園化技術等の開発

花き

- 多様な花き品種の開発力を支える育種基盤の整備及び品質保持輸送技術の開発

酪農

- 省力かつ精密な飼育管理等が可能な酪農システムの確立

肉用牛

- 自給飼料基盤に立脚した肉用牛の効率的な繁殖・肥育システムの確立

養豚・養鶏

- 自給飼料を最大限に活用した養豚・養鶏モデルの確立

環境保全型農業

- 農業生産の効率化と環境保全等の効果が両立する農業技術の開発及び導入便益の見える化

森林・林業

- 森林利用技術の高度化及び林産物の新たな需要開拓

水産業

- 魅力ある漁業・養殖業を実現する技術開発

6次産業化

- 地域の雇用・所得の増大に資する6次産業化関連技術の開発

輸出促進

- 農林水産物の国別・品目別輸出戦略の実現を支援する輸出関連技術の開発

食品安全・動植物防疫

- 食品の安全性向上技術及び動植物防疫技術の開発

農業・農村インフラ

- 効率的な圃場水管理、農業・農村インフラの効果的維持管理技術と農村の防災・減災情報システムの開発

鳥獣害対策

- 鳥獣特性に応じた効果的・効率的な被害防止技術等の確立

東日本大震災

- 被災農林家の営農・森林作業、被災漁業者の操業の再開を阻む技術的課題の解決

2. 中長期的な戦略の下で着実に推進すべき研究開発

- 地球温暖化の進行や少子高齢化に伴う消費動向の変化など中長期的な視点で取り組むべき課題について、農林水産研究が目指すべき6つの基本的な方向に即して、11の重点目標を設定。
- 特に重要な研究開発テーマについては、関係業界、外部有識者等の意見を聴きながら、研究開発戦略を作成。

安全で信頼される食料を安定供給し、国民の健康長寿に貢献する

- 生産現場から食卓までの安全管理の徹底や動植物の疾病・病害虫の侵入・まん延を防止するための技術開発
- 健康長寿社会を支える栄養・機能性に優れた農林水産物・食品を供給するための技術開発

農林水産物の生産流通システムを革新し、大幅なコスト削減を実現する

- 農林水産物の生産・流通システムを革新するための技術開発

農山漁村に新たな産業や雇用を生み出す

- 地域資源を活用した新産業創出のための技術開発

農林水産物の単収・品質向上を促進し、「強み」をさらに引き伸ばす

- 世界に誇れる強みのある農林水産物の開発

農林水産業の持続化・安定化を図る

- 地球温暖化に対応した農林水産業の適応技術の開発
- 病害虫や家畜伝染病等の防疫技術の高度化
- 資源循環型の持続性の高い農林漁業システムの確立
- 農山村の多面的機能を最大限に発揮させ、農山漁村インフラ及び森林を持続的に整備・利用・管理する技術開発
- 海洋生態系と調和した水産資源の持続的な利用を支える水産技術の開発

地球規模の食料・環境問題に対処し、国際貢献を行う

- 気候変動等の地球規模課題への対応や開発途上地域の食料安定生産等に関する国際研究